

2016年7月5日(火曜日)の東海新聞に パン・アキモトの活動について紹介されました!

東海新報

平成28年(2016年)

7月5日 火曜日



選手との交流など多彩に

フロンターレとベガルタが対戦
スマイルフェスに2800人

陸前高田

陸前高田市気仙町の仮設グラウンドで3日、「高田スマイルフェス2016」が開催された。サッカーJ1・川崎フロンターレ(F)と同市との間に昨年結ばれた友好協定「高田フロンターレスマイルシップ」に基づくイベントで、川崎Fとベガルタ仙台との試合が展開された。公式戦ではないものの、本県沿岸部でJ1同士の試合が実現したのは初めて。中内外から訪れた約2800人の来場者はゲームのみならず選手との交流、陸前高田と川崎のグルメや、ナオト・インテライミさんのミニライブなども満喫した。

震災後、川崎Fが同市へ応援の旗を掲げた。午前10時の開場から市へオリジナル算数教材などを支援したことなどがきっかけとなり、昨ウリリングやキックダウン9月に結ばれた協定。フェスティバルは住民を激励しようと企画され、この日は抽選で選ばれる気仙管内在住者をはじめ、川崎、仙台からのツアー客などが会場の土上部長グラウンドで中村選手と交流ゲームも楽しんだ。川崎Fの選手らと交流ゲームを楽しんだり、中学生対象のサッカー教室が開

かれるなど、プロの技術とプレーヤーの柄に直接触れた。さらにキャプテンでMFの中村憲剛選手(35)、3年連続Jリーグ得点王のF.W・大久保嘉人選手(34)らのサイン会も行われ、ファンたちを興奮させた。

メインイベントのスマイルドリームマッチは30分ハーフで実施。通常より短い時間とあって試合は濃密な展開となった。0-0で迎えた後半、両チームは1点ずつ取り合った。互いに譲らず、ゲームは引き分けに。観客は熱い試合の余韻を残したまま、フィナーレとなるナオトさんのライブで盛り上がった。

物販・飲食ブースには市内の飲食店や食品製造業者も出店。川崎で配ります」と大層に物産を買っていく人がいたり、ホタテ、イカ焼きを販売した広田湾漁協ブースに長蛇の列ができるなど好評を博した。またゲーム終了直後にフロンターレサポーターが何度も「りくせんたー!」とコールするなど、同市へのエールを市民に届けた。



陸前高田市に缶詰パン贈呈
サポーターが購入した備蓄用の缶詰パン341缶が陸前高田市に贈呈された。栃木県那須塩原市にある株式会社「341」が購入したサポーターが購入した備蓄用の缶詰パン341缶が陸前高田市に贈呈された。栃木県那須塩原市にある株式会社「341」が購入したサポーターが購入した備蓄用の缶詰パン341缶が陸前高田市に贈呈された。

高田支援キャンペーンを実施。会場では缶詰パンを販売し、うち1個を同市へ寄贈するという内容で、341個を売り上げた。

2日はパン・アキモト取締役部長の秋元信彦さん(36)と、JT B首都圏第二グループ長・大西博之さん(37)が高田市の防災センターを訪問。同市防災課の中村吉雄課長補佐に缶詰パンを手渡した。

パッケージは「たかたのゆめちゃん」や「あろん太」が描かれた特製仕様。1個ずつに購入者から「共に前へ!がんばっ!」などお手描きメッセージも添えられている。

秋元さんは「単にパンを売るだけでなく、人を呼ぶ一人ひとりを呼ぶ」と話していた。

高田FCに所属する矢野小6年の吉田和明君は「選手たちの本気の姿を見ることができて良かった。ほかの県の人たちが僕らのためにいろいろしてくれていたのでうれしかった」と、川崎や仙台のファンへの思いに感謝を示していた。

アキモトと専門商社大手(株)JB商事(東京都)による企画で、川崎のサッカーファンからの善意を届けた。パン・アキモトは普通のパンだけでなく非常食用のパンを製造する会社。企業などの防災意識を高めると同時に、飢餓に苦しむ国をサポートする「救世プロジェクト」を展開するほか、東日本大震災発生後は食の被災地支援も行ってきた。